

■児童の学力の状況

- 「全国学力・学習状況調査」の結果から、国語、算数共に全国の正答率を上回っているものの、都の平均と比べると低い値になっている。【知識・技能】に比べて、【思考・判断・表現】の正答率が低い。
- 文章をじっくりと読み、内容を正しく理解することに苦手意識をもつ児童が多い。
- 意欲的に学習に取り組み、学習内容を理解するが、しばらく時間たつと学習したことを忘れてしまう児童が多く見られる。基礎・基本の定着率が低い。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

- 児童一人ひとりが自分の考えをもち、それを友達と共有することで、互いに高め合う指導を工夫する必要がある。
- 文章をよく読み、内容を理解する力を育むための指導を工夫する必要がある。
- 限られた授業時数の中では基礎・基本を定着させるための時間が十分にはとれない。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

- 授業力向上に向けて、全教員が互いの授業を見合う体制づくり、学年間での交換授業、ICT活用研修を推進する。
- 板橋区授業スタンダードSのもと、めあての明確化、児童が自分で課題を解決する時間の確保、学びを振り返る時間の確保、ICT機器の活用、一人一台端末を使った学習の日常化を推進する。児童が自己選択、自己決定、自己調整しながら進める学習を取り入れる。
- 基礎・基本の定着を目指し、算数の習熟度別学習指導、志五小漢字・計算テスト、志五小道場を活用して、児童の苦手箇所の克服と学習習慣の確立をめざす。
- 読み解く力の育成を目指し、認識（Input）→思考（Think）→表現（Output）の場面を意識的に設定する。教科書の文章や図表から読み取ったことを基にして、分かったこと、考えたことを相手に伝える力を育成する。読書活動を充実させる。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1 板橋区授業スタンダードの徹底、及び板橋区授業スタンダードSの取組	視点2 読み解く力の育成	視点3 総合的な学習の時間との連携
○めあてを明確化し、授業の終わりに児童自身が学んだことを振り返り、一人一台端末やノートに記録することを習慣付ける。 ○児童が自分に合った学習内容、方法ペース、順序を自己選択して学ぶ場面を設定する。	○授業の中にInput→Think→Outputの場面を設定する。 ○朝読書、読み聞かせ、板橋区電子図書館の活用、読書の記録など、読書活動を充実させる。 ○話し合い活動では、視点を明確にして聞いたり話したりできるよう指導する。	○各教科等の学びを総合的な学習の時間につなげられるようにする。 ○「課題設定→情報収集→分析・考察→課題解決→新たな課題の設定」という学習の流れを取り入れていく。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた取組

小中一貫教育の推進	カリキュラムマネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
○9年間を通して、各教科において、SDGsの視点に立った学習の推進を図る。 ○総合的な学習の時間では、郷土愛やSDGsとの関連を重視し、児童が自らの興味・関心に基づいた探究活動を行うことで、持続可能な社会を形成する力を養う。	○総合的な学習の時間において、3年生では「志五小タイムトラベラー」、4年生では「地域安全マップを作ろう」、5年生では「倉淵と板橋の特徴をくらべよう」、6年生では「板橋の魅力について考えよう」という単元を設定している。学校や地域の歴史、板橋の特徴や魅力について児童自らが考え、興味をもったことを大切にしながら、探究的な活動へとつなげていく。	○全学級で電子黒板、一人一台端末を効果的に活用する。児童にとって一人一台端末を使って学習することが日常のこととなるよう、積極的に活用する。 ○個別学習や協働学習、自己選択型学習の際、一人一台端末を活用して、児童一人ひとりの個別最適化を図る。